



# Newsletter No. 27

## Maxillofacial Prosthetics

発行人 鰐見進一

編集 広報委員会

事務局 T135-0033 東京都江東区深川2-4-11 一ツ橋印刷(株) 学会事務センター内

Tel: 03-5620-1953 Fax: 03-5620-1960

E-mail: max-service@onebridge.co.jp

### 次世代育成事業「第2回若手研究者短期海外研修」予告



国際交流委員会委員長

尾澤 昌悟

一昨年度から始まった次世代育成事業は、昨年度の学術大会でも成果を報告させていただいたように成功裡に第1回を終了しました。コーディネーターの労をお引き受けいただいた東京医科歯科大学大学院の隅田由香先生をはじめ関係の方々、快く迎えていただいたUCSFのシャルマ教授に対し、本誌面をお借りして厚く御礼を申し上げます。

さて本年度は、第2回若手研究者短期海外研修を計画しています。コーディネーターは、東京医科歯科大学大学院の服部麻里子先生にお願いしました。研修先は服部先生が以前に留学されたドイツ・フライブルク大学です。フライブルク大学は、ドイツ大学ランキングで上位にランクされる名門で、歯学部も研究が盛んなことで知られています。最近では補綴科のシュトゥルブ教授が来日して、CAD/CAM等のデジタル歯科先進技術を紹介されたことが記憶に新しいと思います。今回はその

シュトゥルブ教授の後任として就任された、コーサル教授のもとで研修させていただくことになりました。大学の街フライブルクはシュバルツバルトで有名なドイツ南西部の国境近くにあり、ドイツの都市で最も日が長く温暖な気候で知られています。先進技術大国ドイツでのデジタル歯科研修ということで、第1回に引き続き今回も非常に楽しみなプログラムとなっていますので、我こそはとお考えの若手研究者の先生方は、奮ってご応募ください。国際交流委員会は広報委員会と連携して、参加者の募集と選考を担当します。詳細は以下のとおりです、学会ホームページにも募集要項を掲載します、よろしくお願ひいたします。



フライブルクの風景

## 若手研究者海外短期研修 概要

目的：顎顔面補綴学の発展に寄与する国際的・学際的な研究者の育成を振興する事業の一環として、一般社団法人日本顎顔面補綴学会若手会員の海外研修を促進するため、この事業を行う。研修施設ならびに日程：フライブルク大学（ドイツ、フライブルグ）。

2019年2月26日午後～3月1日午後まで。  
研修予定：フライブルク大学および大学附属病院の見学、デジタル歯科技術研修および歯学部補綴科講義に参加。

交通費：学会が一部援助（手続き方法は別途案内）。  
宿泊：各自にて手配。

応募資格：本学会の会員であり、30歳以下で大学院博士課程在籍中の者、または35歳以下で既に博士号を有する者あるいは本学会の認定歯科衛生士、認定歯科技工士の資格を有する者。

応募方法：応募要項は学会ホームページに掲載。

## オクルーザルランプ、保険に収載

医療委員会委員長 隅田 由香

本年は保険改定の年にあたっており4月には平成30年度保険改定が公開されました。昨年一年を費やしまして、本学会からはオクルーザルランプを新技術として収載を目指し、医療委員会で取り組んで参りました。オクルーザルランプは下顎広範囲欠損などで顎位の変化が顕著な症例で有効な補綴装置であり、本学会の先生方には馴染みのある補綴装置ですが、保険収載されておらず、実は4年ほど前の理事会にて耐摩耗性に優れる人工歯を使用したオクルーザルランプが作れるように、保険収載してほしいとのリクエストを戴きました。

いざ申請書類を作成し始め、医療委員会総力を挙げての論文検索を実施したものの、症例報告は出ているのですが、根拠論文とできるような科学論文が少なく、エビデンスがあまりないことが判明し、愕然としましたが、Beumer先生の教科書なども根拠に挙げまして、なんとか体裁を整え提出いたしました。厚労ヒアリングには大山委員

とともに臨み、顎補綴全般についての理解を示していただき、申請技術のオクルーザルランプ以外の多くの案件についても話合いができました。

以下、今回の改定で追加・変更があった、本学会関連項目を抜粋して掲載させていただきますので、ぜひ算定にお役立ていただき、診療行為への適切な請求を漏れなく実施いただければと存じます。

### M025 【口蓋補綴、顎補綴】

必ず摘要欄に以下の「イロハニホ」のいずれかを記載してください。

イ 腫瘍、顎骨囊胞等による顎骨切除に対する口蓋補綴装置又は顎補綴装置  
□ オクルーザルランプを付与した口腔内装置（新設）  
ハ 発音補整装置（スピーチエイド等）  
ニ 発音補助装置（発音障害）  
ホ ホツツ床

イ 腫瘍、顎骨囊胞等による顎骨切除に対する口蓋補綴装置又は顎補綴装置（歯の欠損補綴を伴わないもの）

装置代	印象採得	咬合採得	試適	装着料	調整	修理	床裏装
印象採得が困難なもの 1,500	222	283	190	150	189 4回/月	*1	790 口蓋補綴のみ
印象採得が著しく困難なもの 4,000	402	283	190	300	189 4回/月	*1	790 口蓋補綴のみ

\*1：有床義歯に準じる

イ 腫瘍、顎骨囊胞等による顎骨切除に対する口蓋補綴装置又は顎補綴装置（歯の欠損補綴（義歯）を伴うもの）

装置代	印象採得	咬合採得	試適	装着料	調整	修理	床裏装
義歯代 + 困難なもの 1,500 + 222	義歯に対する印象採得料 + 222	*1	*1	150 *2は 230	189 4回/月	*1	*1
義歯代 + 著しく困難なもの 4,000 + 402	義歯に対する印象採得料 + 402	*1	*1	300	189 4回/月	*1	*1

\*1：有床義歯に準じる

\*2：ただし総義歯とコンビの場合

顎補印象と MT 印象の同時算定が不可と発表され驚きましたが、2018年4月25日の発表にて、「印象採得は本区分及び有床義歯に係る区分のそれぞれの所定点数を合算した点数により算定する。」と訂正されました。ご安心ください。

#### I017【口腔内装置】

##### ト 気管挿管時の歯の保護等を目的として製作した口腔内装置（新設）

装置代	印象採得	咬合採得	試適	装着料	調整	修理
650	42	×	×	30	×	×

##### リ 放射線治療に用いる口腔内装置

装置代	印象採得	咬合採得	試適	装着料	調整	修理
1,500	222	*3	×	150	×	×

\*3：装置の範囲に相当する歯数により有床義歯に準じる

#### I017-1-3 舌接触補助床（摂食機能障害）

装置代	印象採得	咬合採得	試適	装着料	調整	修理
新製した場合 2,500	230	187	×	120	194 4回/月	234 1回/月
旧義歯を用いた場合 1,000	230	187	×	120	194 4回/月	234 1回/月

#### I017-1-4 術後即時顎補綴装置

装置代	印象採得	咬合採得	試適	装着料	調整	修理
2,500	230	187	×	300	220 1回/月	234 1回/月

#### B002【歯科特定疾患療養管理料】150点

##### [対象患者の追加]

ヘ 骨吸収抑制薬関連顎骨壊死（骨露出を伴うものに限る。）又は放射線性顎骨壊死

#### H000【脳血管疾患等リハビリテーション料】

##### [対象患者の追加]

ク 舌悪性腫瘍等の手術に伴う構音障害を有する患者

#### D012【舌圧検査】140点

##### [対象患者の追加]（月2回に限り算定）

- ・口蓋補綴・顎補綴を装着する患者
- ・広範囲顎骨支持型補綴を装着する患者

＜参考資料 2018/05/07 現在＞

本稿の校閲を賜りました、愛知学院大学 吉岡文先生と東京医科歯科大学 原口美穂子先生に心より感謝申し上げます。

#### 2017年度優秀論文賞受賞者の声



隅田 由香

東京医科歯科大学  
大学院医歯学総合研究科  
顎顔面補綴学分野

試作エピテーゼ用シリコーン材料の粘弾性特性の検討 —第2報：垂れ止め剤と重合条件の影響について— 顎顔面補綴 40 (1) : 1-6

この度は2017年度日本顎顔面補綴学会優秀論文賞を戴き、誠に有難うございます。選考下さいました小山学術委員長をはじめとする学術委員の先生方、査読を行って下さいました山森編集委員長をはじめとする編集委員の先生方、論文作成のご指導を下さいました谷口 尚名誉教授、実験実施のご指導を下さいました高橋英和教授、大木明子先生、実験と論文作成に協力くださった服部麻里子先生、試料の作製を協力下さった吉先生、Mahmoud先生そして医局の先生方に心より感謝申し上げます。本学会に入会して以来、この雑誌とは一愛読者としてもまた編集に携わる者としても長いお付き合いになりますが、この度このような名誉な賞を頂くことができ、大変光栄に存じます。

本論文は、顎面エピテーゼ材料の薬事認証取得を目的として本学会が実施した、顎面エピテーゼ用材料開発プロジェクトで実施された基礎実験結果をまとめたものです。エピテーゼ用材料としてはシルフィー（ジーシー社）が2015年10月に上市されました。本論文はその前身である試作シリコーン材料を用いた内容です。顎顔面補綴 37巻1号（2014年）に掲載されました大木明子先生の論文に引き続き粘弾性特性を評価し、第二報として報告させていただきました。改良後の試作シリコーン材料のうち手練和タイプ

のKRS-10F, KRS-10 およびカートリッジタイプのKRS-C2B2, KRS-C2P1を用い、粘弾性特性評価を行ったところ以下の結論を得ました。

- (1) 改良型試作顔面補綴用シリコーンの粘弾性特性は主に弾性変形を示すことが明らかとなった。
- (2) 新規開発された垂れ止め材が粘弾性特性に与える影響は小さいことが明らかとなった。
- (3) 第一報に比して保管時間の違いによる粘弾性特性の変化が認められなかった。

本邦で医療に適用できるように薬事認証を受けた顔面エピテーゼ用材料が存在しなかったことは、一般社団法人 日本顎顔面補綴学会における懸案事項であり、歴代の理事長先生、医療委員会の委員長先生、そして医療委員会の先生方をはじめとする会員の先生方が長年に亘り解決策を模索してこられました。まず石上前理事長と谷口前医療委員長の下で材料開発プロジェクトが起動し、ジーシー社が材料開発に名乗りを挙げてくださいました。その後基礎実験施設及び臨床応用施設のご協力により成果を積み上げることができ、第29回日本顎顔面補綴学会学術大会（田中貴信大会長）、第30回学術大会（山森徹雄大会長）、第31回学術大会（高橋 哲大会長）では材料について多くの研究発表が行われました。さらに2014年発行の顎顔面補綴 第37巻1号では材料開発に関わる特集記事が掲載され、各施設のご尽力により多くの論文が本雑誌に上梓されました。この度の受賞は、ジーシー社とともに材料開発に携わってきた関係者各位、協力施設、そして材料開発を推進してこられた石上前理事長、谷口前医療委員会委員長、医療委員会の委員の先生方、鰐見理事長のご尽力の賜物と存じます。

今後は受賞致しましたことを励みに、いよいよ薬事項目として「顔面補綴材料」という新規項目の追加収載を目指します。この度の受賞に改めまして心よりお礼申し上げますとともに、今後ともご指導ご鞭撻賜りますことを、どうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

## 海外留学報告：ウィスコンシン大学

堀 一浩

新潟大学

大学院医歯学総合研究科

包括歯科補綴学分野



2017年5月より2018年2月まで、アメリカ・ウィスコンシン大学マディソン校へ留学する機会を頂きました。お世話になったティモシー・マッカロー教授は、ハイレゾリューションマノメトリーを用いた嚥下時の咽頭圧解析に関する研究を長年行っておられます。私は、以前より行っている舌圧研究で用いているセンサシートシステムを持ち込んで、ハイレゾリューションマノメトリーとの同期計測を行いました。口腔から咽頭までの一連の嚥下過程を理解するための興味深いデータを集めることができました。ラボ自体はあまり大きくありませんが、非常にアットホームな雰囲気があり、こころよく私を迎えてくれてありがとうございました。メンバーはみんなアクティビティが高く、摂食嚥下の分野では世界的にも進んだ研究を行っています。また、摂食嚥下分野の研究を行っているラボが他にもいくつもあり、そういうメンバーの研究をみせてもらいながら、ディスカッションを行うことはとても貴重な体験でした。

大学はウィスコンシン州のマディソン市にあり、小さな大学町です（マディソン郡の橋という映画がありました）。とても落ち着いた治安のよい街で、-20°Cになってしまふ冬場の寒さを別にすればとても過ごしやすいところでした（といっても新潟の80年ぶりという大雪の写真を見せたらみんなにクレージーだって言われたのですが）。日本人はあまり多く在住しているわけではありませんでしたが、それでも日本の大学や企業から来られた研究者が何人かおられ、家族ぐるみで仲良くさせていただきました。9か月間という短い滞在期間でしたが、非常に良い体験をさせていただきました。ぜひ、若い研究者にもこういった機会をつかんでもらって海外で

の研究生活を経験してもらいたいと思います。最後になりましたが、私に貴重な機会を与えていただいた当分野小野高裕教授、こころよく送り出してくれた当科医局のスタッフに感謝いたします。



Timothy McCulloch教授（右端）とラボのメンバー

スター・コンペティションでは、依田信裕先生（東北大学）と藤田遙先生（東京医科歯科大学）が見事に受賞されました。おめでとうございました！

2018年のAAMPは10月27・28日にメリーランド州ボルチモアにて、ISMRは7月26-28日にオーストラリア・メルボルンにてオーストラリア・ニュージーランド頭頸部腫瘍学会と共同開催される予定です。 （広報委員 堀 一浩）



学会場の様子

### 関連学会報告

#### The 4<sup>th</sup> Joint Meeting of the ISMR-AAMP

2017年10月28-31日に、カリフォルニア州・サンフランシスコのパレスホテルにて、The 4<sup>th</sup> Joint Meeting of the ISMR-AAMPが、Dr. Howes 大会長 (ISMR) と Dr. Gerngross 大会長 (AAMP) のもと開催されました。今回の大会は第14回 ISMR と第65回 AAMP の共同開催となり、テーマは Research and Patient Care Bridging the Gap でした。参加者は400名を超えており、演題数も112題ありました。歯科医師・口腔外科医・補綴専門医だけではなく、頭頸部外科や形成外科をはじめとした医師の参加も多く、顎顔面補綴の技術の広がりを感じます。これまでの当学会と同様にインプラントやエピテーゼに関する発表が多くなったのはもちろんですが、デジタル技術を用いてサージカルステントを製作し切除術や再建術のガイドに用いるといった報告が散見され、デジタルデンティストリーが補綴装置の製作だけでなく、手術をアシストする手法への展開が進んできている様子でした。我々も歯科領域にとどまることなく、医科の様々な領域との連携を模索する必要を痛感しました。これまでに比べると日本からの参加者はやや少なくなっている印象を受けましたが、それでも本邦からは18題の演題が発表され、ポ

#### 1<sup>st</sup> Place of Poster Competition 受賞のよろこび



依田 信裕

東北大学病院 歯科部門

咬合回復科

演題名: Biomechanical Bone Responses by Mandibular Reconstruction with Fibula Free Flap

この度、The 4<sup>th</sup> Joint Meeting of the ISMR-AAMPにおけるポスター発表にて、優秀ポスター賞を授与いたしました。

今回受賞対象となった発表は、オーストラリアのシドニー大学との共同研究成果の一部で、下顎骨区域切除後に血管柄付き腓骨皮弁を用いて再建した顎骨における経年的骨治癒および骨リモデリングについて報告したものです。本研究では、実際に下顎骨の再建が行われた患者のCTデータを解析し、下顎骨と移植された腓骨との接合部における経時的な骨治癒や骨形態変化様相の定量測定を実施しました。さらに、CT解析から得られた臨床的な骨変化と生体データベース有限要素解析により得られた骨内歪みエネルギー密度との関連を解析することで、再建顎骨の骨接合部位における骨治癒や骨リモデリングに影響を及ぼす生体力

学的因子の一部を解明することができました。

本研究の遂行にあたりご指導ご協力いただきました顎顔面口腔再建治療部部長の小山重人先生、歯学研究科口腔システム補綴学分野教授の佐々木啓一先生ならびに医局員の皆様、また共同研究者のシドニー大学工学部 Qing Li 教授ならびに教室員の皆様に心より御礼申し上げます。最後に、当学会の益々の発展、また諸先生方のご活躍をお祈り申し上げます。

### 2<sup>nd</sup> Place of Poster Competition 受賞のよろこび



藤田 遥

東京医科歯科大学

顎顔面補綴学分野

演題名：Current Status of Dementia and Wearability of Maxillofacial Prosthesis Among Patients at Maxillofacial Prosthetics Clinic

The 4<sup>th</sup> Joint Meeting of the ISMR-AAMP にてポスター賞を頂き、大変光栄に存じます。

頭頸部腫瘍切除後に生じる顎欠損に対して適用する顎義歯は、咀嚼機能・嚥下機能・発話機能の向上に寄与しています。顎義歯を使用している患者が認知症を発症した場合にも、日常生活のために顎義歯は欠かせないのですが、介護者にとって複雑な形態である顎義歯は馴染みがなく、着脱は極めて困難なことが予測されます。

このため、顎欠損患者が認知症を併発する可能性の程度を明らかにすること、また、患者が認知症を発症し自身での顎義歯装着が不可能となった場合、家族や介護者等の第三者が簡単に装着でき、顎欠損患者が痛みなく装着し続けられる顎義歯の形態を模索するため、本研究を立案しました。

この結果、本学顎義歯外来を受診した65歳以上の患者43名のうち3名の患者に認知症の疑いが高いと判断され(4.7%)、現在の日本における65歳以上の認知症罹患率10.9%よりも低い結果となりました。また、VASスケールを用いた顎義歯着脱の正確さについて、7名の患者では、患者が担

当医よりも高い値を記し、このうち1名に認知症の疑いがありました。装着の正確性に関する値の乖離の原因として、患者のなかには正しい顎義歯装着の理解が十分でない患者も存在することが考えられました。今後も調査を続け、顎義歯装着を困難にしている要因を検討していく所存です。

最後に、本研究の機会を与えて下さいました東京医科歯科大学顎顔面補綴学分野谷口 尚名誉教授、多大なご指導・ご鞭撻を戴きました隅田由香講師、並びに研究遂行にあたり御協力、御助言を戴きました諸先生方に厚く御礼申し上げます。

より一層精進して参る所存でございます。今後ともご指導宜しくお願い申し上げます。

### 関連学会のご案内

#### ●日本補綴歯科学会第127回学術大会

会期：2018年6月15日(金)～17日(日)

大会長：皆木省吾(岡山大学大学院)

会場：岡山コンベンションセンター／ホテル  
グランヴィア岡山

問合せ：[運営事務局] 株式会社メッド

E-mail : jps127@med-gakkai.org

<http://www.med-gakkai.org/jps127/>

#### ●日本老年歯科医学会第29回学術大会

会期：2018年6月22日(金)～23日(土)

大会長：佐藤裕二(昭和大学歯学部)

会場：きゅりあん

問合せ：昭和大学歯学部高齢者歯科学講座

[運営事務局] 株式会社日本旅行 ECP 営業部

E-mail : gero\_29@nta.co.jp

<http://web.apollon.nta.co.jp/gero29/>

#### ●第36回日本顎咬合学会学術大会・総会

会期：2018年6月9日(土)～10日(日)

大会長：上田秀朗(うえだ歯科)

会場：東京国際フォーラム

問合せ：第36回学術大会事務局

E-mail : gakujutsu@ago.ac

<https://www.agoh.ac/36th/>

#### ●第42回日本頭頸部癌学会

会期：2018年6月14日(木)～15日(金)

大会長：林 隆一（国立がん研究センター東病院）  
 会 場：京王プラザホテル  
 問合せ：株式会社プロコムインターナショナル  
 E-mail : jshnc42@procomu.jp  
<http://www.procomu.jp/jshnc2018/>

●第 19 回日本言語聴覚学会  
 会 期：2018 年 6 月 22 日（金）～ 23 日（土）  
 大会長：中野 徹（（一社）富山県言語聴覚士会／  
 富山赤十字病院リハビリテーション科）  
 会 場：富山県民会館／富山国際会議場  
 問合せ：株式会社コングレ九州支社  
 E-mail : jaslht2018@congre.co.jp  
<http://www.congre.co.jp/jaslht2018/>

●第 31 回日本顎関節学会総会・学術大会  
 第 23 回日本口腔顔面痛学会学術大会  
 第 33 回日本歯科心身医学会総会・学術大会  
 会 期：2018 年 7 月 7 日（土）～ 8 日（日）  
 大会長：鰐見進一（九州歯科大学）、松香芳三（徳島大学大学院）、依田哲也（埼玉医科大学）  
 会 場：北九州国際会議場／西日本総合展示場  
 新館 AIM  
 問合せ：エス・ティー・ワールドコンベンション事業部  
 E-mail : jstj31@stworld.jp  
<http://www.jstj31.com/index.html>

●第 20 回日本口腔顎顔面外傷学会総会・学術大会  
 会 期：2018 年 7 月 13 日（金）～ 14 日（土）  
 大会長：喜久田利弘（福岡大学医学部）  
 会 場：TKP ガーデンシティ PREMIUM 博多駅前  
 問合せ：福岡大学医学部歯科口腔外科学講座  
 TEL : 092-801-1011  
<http://www.jsomft20.com/index.html>

●第 37 回日本歯科医学教育学会総会および学術大会  
 会 期：2018 年 7 月 27 日（金）～ 28 日（土）  
 大会長：大野 敬（奥羽大学）  
 会 場：奥羽大学  
 問合せ：（一財）口腔保健協会コンベンション  
 事業部内 第 37 回日本歯科医学教育  
 学会総会および学術大会事務局  
<http://www.kokuhoken.jp/jdea37/>

●Joint Meeting of ANZHNCS and ISMR  
 会 期：2018 年 7 月 26 日（木）～ 28 日（土）

大会長：Tim Iseli  
 会 場：Melbourne, Australia  
<https://www.anzhnacs-ismr2018.com/>

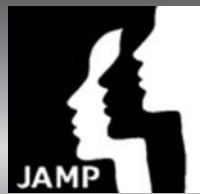
●第 24 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会  
 会 期：2018 年 9 月 8 日（土）～ 9 日（日）  
 大会長：出江紳一（東北大学大学院）  
 会 場：仙台国際センター／東北大学百周年記念会館・川内萩ホール  
 問合せ：株式会社コンベンションリンクエージ LINKAGE  
 東北  
 E-mail : jsdr2018@c-linkage.co.jp  
<http://www.c-linkage.co.jp/jsdr2018/>

●第 28 回日本口腔内科学会  
 第 31 回日本口腔診断学会合同学術大会  
 会 期：2018 年 9 月 14 日（金）～ 15 日（土）  
 大会長：里村一人（鶴見大学歯学部）  
 会 場：横浜市開港記念会館  
 問合せ：株式会社日本旅行国際旅行事業本部 ECP 営業部  
 E-mail : jsom\_2018@nta.co.jp  
<http://web.apollon.nta.co.jp/jsom2018/index.html>

●第 48 回日本口腔インプラント学会学術大会  
 会 期：2018 年 9 月 14 日（金）～ 16 日（日）  
 大会長：馬場俊輔（大阪歯科大学）  
 会 場：大阪国際会議場  
 問合せ：日本コンベンションサービス株式会社 関西支社内  
 E-mail : jsoi2018@convention.co.jp  
<http://www2.convention.co.jp/jsoi2018/>

●第 11 回日本総合歯科学会総会・学術大会  
 会 期：2018 年 10 月 27 日（土）～ 28 日（日）  
 大会長：田口則宏（鹿児島大学大学院）  
 会 場：鹿児島県歯科医師会館  
 問合せ：鹿児島大学病院・歯科総合診療部  
[http://jsgd.jp/11th\\_grand\\_conference/index.html](http://jsgd.jp/11th_grand_conference/index.html)

●第 63 回日本口腔外科学会総会・学術大会  
 会 期：2018 年 11 月 2 日（金）～ 4 日（日）  
 大会長：柴原孝彦（東京歯科大学）  
 会 場：幕張メッセ 国際会議場および国際展示場  
 問合せ：株式会社コングレ内  
 E-mail : jsoms2018@congre.co.jp  
<http://www.congre.co.jp/jsoms2018/>



# Newsletter No. 27

## Maxillofacial Prosthetics

### ●第32回日本口腔リハビリテーション学会学術大会

会期：2018年11月10日(土)～11日(日)

大会長：前田照太(大阪歯科大学附属病院)

会場：神戸芸術センター・芸術劇場

問合せ：第32回日本口腔リハビリテーション  
学会学術大会準備委員会

TEL：06-6910-1012

E-mail：jaor32@cc.osaka-dent.ac.jp

### ●第20回日本口腔顎顔面技工研究会・学術大会

会期：2018年11月24日(土)

大会長：伊佐次厚司(愛知医科大学)

会場：東海東京証券ミッドランド・プレミアサロン

問合せ：愛知医科大学病院歯科口腔外科技工室

TEL：0561-78-6307

E-mail：issay@aichi-med-u.ac.jp

### ●第37回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会

会期：2019年1月24日(木)～25日(金)

大会長：梅田正博(長崎大学大学院)

会場：長崎ブリックホール

問合せ：株式会社コンベンションリンクケージ

E-mail：js0037@c-linkage.co.jp

<http://www.c-linkage.co.jp/js0037/index.html>

### 皆様のご意見をお寄せください。

一般社団法人日本顎顔面補綴学会広報委員会

委員長 松山美和

委員 大木明子, 関谷秀樹, 中島純子,

堀 一浩, 宮本哲郎, 吉岡 文

E-mail：max-service@onebridge.co.jp

### 新刊書籍紹介



成人～高齢者向け

咀嚼機能アップBOOK

実践に活かせる知識・アイ  
デアがわかる本

小野高裕・増田裕次監著

クインテッセンス出版

定価 5,184円

最初に出版社から話があったのは2年前、「一般的の歯科医院でも取り入れられるような、中高年をターゲットにした咀嚼指導の実戦的な書籍を制作したい」と言う企画でした。相談を受けた私と口腔生理学者の増田先生は、「よし、咀嚼に関してこれまで無かった理論から実践までの本を作ろう!」と張り切った訳です…しかし、それから苦難の道が待っていました(笑)。

結果的に出来上がった本は、私と増田先生の思い通り、「咀嚼の重要性とは何か」、「咀嚼をどう評価するか」、「咀嚼機能をどう高めるか」について、第一線の研究者・臨床家に最新の知識と経験を注入していただいたものとなりました。しかも歯科医院スタッフや歯科以外の方にもわかっていただけの平易な解説で(ここが一番大変でした!)。顎顔面補綴に携わる皆様は、おそらく一般臨床でも高い意識を持って咀嚼障害の患者さんに取り組んでおられると思います。そんな方にこそ読んでいただき、ご活用いただきたい一冊です。

(監著者 小野 高裕)